

タイトル：神の恵みの管理者

聖書箇所：ペトロの手紙 一 4章1～11節

以下、新共同訳聖書の「ペトロの手紙 一 4章1～2節」と「小見出し」です。

「苦しみ」が、「恵み」にチェンジする聖書の箇所が、今日の聖書箇所です。

【新共同訳】一ペト

◆神の恵みの善い管理者

4:1 キリストは肉に苦しみをお受けになったのですから、あなたがたも同じ心構えで武装しなさい。肉に苦しみを受けた者は、罪とのかかわりを絶った者なのです。

4:2 それは、もはや人間の欲望にではなく神の御心に従って、肉における残りの生涯を生きるようになるためです。

1節には、肉の苦しみということばが、2度使われています。最初の苦しみは、キリストの苦しみで、次の苦しみは、信じた人々が受ける苦しみです。キリストの苦しみは、私たちに救いを与えるためです。苦しみというネガティブな言葉が、キリストの苦しみが生み出す、救い、癒し、解放、・・・というポジティブな言葉に逆転します。私たちの苦しみは、どうでしょうか。「肉に苦しみを受けた者は、罪とのかかわりを絶った者なのです。」と、書かれています。これは、ペテロの体験した信仰の結果です。「肉の苦しみ」が、「罪とのかかわりを絶った者」、つまり、日常生活スタイルが、清々しく爽やかに一変した姿が思い浮かびます。この姿を、教会では、新生、ボーン・アゲイン、と話しています。

続く2節には、新生の体験をした人が、どのように生きるのかを、「神の御心に従って」、これは、生きてゆく人生のバックボーンです。「肉における残りの生涯」は、人それぞれの明日、来月、来年、3年後、・・・という、将来に関わる事柄です。「将来」の語源をググってみました。「未来」は、「今だ来ない」という不確かさがあります。「将来」は、《将（まさ）に来（きた）らんとする時の意》と、確実さが心に響きます。

3節から4節には、「肉における残された生涯」を、「ひどい乱行」で過ごす人々の姿

が書かれています。この人々が、この手紙が書かれた当時の信徒たちに、誹謗中傷の言葉、白い目で見ると、仲間外れにする、といった苦しみを与えていました。

4:3 かつてあなたがたは、異邦人が好むようなことを行い、好色、情欲、泥酔、酒宴、暴飲、律法で禁じられている偶像礼拝などにふけていたのですが、もうそれで十分です。

4:4 あの者たちは、もはやあなたがたがそのようなひどい乱行に加わらなくなったので、不審に思い、そしるのです。

それらの人々に対して、どのような態度をとるのかを、5 節から 6 節で語っています。5 節は、「ひどい乱行」の虜になっている人々のこの世での裁きとあの世での裁きの恐ろしさが描かれています。6 節の「死んだ者にも福音が告げ知らされた」の解釈ですが、「死んだ者」とは、「肉において苦しんだ」殉教者と理解できます。それも、数日前に屍になった殉教者たちの事です。この人たちの死に際は、「ひどい乱行」をし続けた人々とは、違い、天からの良きおとずれ、「福音」がありました。その様子を、「彼らが、人間の見方からすれば、肉において裁かれて死んだようでも、神との関係で、霊において生きるようになるためなのです。」と、明らかにしています。

私事になりますが、2 年前の今頃、介護中の父が熱中症で救急搬送されました。入院治療をしていたのですが、12 月 3 日の日曜日の午後に天に召されました。医師から死亡が告げられました。ひとり、まだ、暖かい父の手を握った時、天からの励ましの御声がありました。肉にある苦しみの中で、父は、天からの福音の励ましを受けていたのだと、確信した時でもありました。

4:5 彼らは、生きている者と死んだ者とを裁こうとしておられる方に、申し開きをしなければなりません。

4:6 死んだ者にも福音が告げ知らされたのは、彼らが、人間の見方からすれば、肉において裁かれて死んだようでも、神との関係で、霊において生きるようになるためなのです。

7 節から 9 節は、「苦しみ」のさ中に生きる人々への心構えと倫理的行動を示していま

す。心構えは、「思慮深くふるまうこと。身を慎むこと。そして、いつもよりもよく祈ること。」この3つです。倫理的行動とは、「心を込めて愛し合うこと。」です。この手紙の読み手は、皆、新生の体験をした人々です。その人たちの間でも、ある人は、不平不満を神様に、あるいは、隣人にもらしてしまうことがあるのです。しかし、教会の中に、「心を込めて愛し合い」が満ち溢れているならば、知らずに、罪を犯している人もその愛の中で、それに、気付かされ、本当の自分の姿を知るのです。「自分はしてはならことをしてしまった。これが、本当の自分の姿なのだ。しかし、その罪を神様は許して下さいなのだ。」このことを、一番していたのは、ペテロでした。マルコ福音書の14章47節を読むとその瞬間のことがよく分かります。

新共同訳 マルコによる福音書

14:72 するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。

自分がしでかしてしまった罪の赦しの体験は、ヨハネによる福音書の21章15節から18節に詳しく書かれています。ここには、罪の赦しを知って、神の愛を体験した人に対するその人の生涯の使命も書かれています。ペテロの場合は、「わたしの小羊を飼いなさい」が、生涯の使命です。

ヨハネによる福音書

21:15 食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。

4:7 万物の終わりが迫っています。だから、思慮深くふるまい、身を慎んで、よく祈りなさい。

4:8 何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。

4:9 不平を言わずにもてなし合いなさい。

このペテロが、最後の 10 節から 12 節で、生涯の使命と賜物について語ります。8 節には「心を込めて愛し合う」と倫理的行動が示されます。10 節では、その行動を支えるのは、それぞれが与えられているタラント、賜物、長所ということではないでしょうか。「その賜物を生かして互いに仕えなさい。」で結ばれています。65 歳を過ぎて、パソコンへの数字の入力のミスが多くなることを自覚しています。なので、計算ソフトの賜物をもつ方に、メールで検分をお願いします。その方は、いつも優しく分かり易く、私の入力ミスを自覚させてくださいます。本当に感謝です。

4:10 あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。

4:11 語る者は、神の言葉を語るにふさわしく語りなさい。奉仕をする人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して、神が栄光をお受けになるためです。栄光と力が、世々限りなく神にありますように、アーメン。

今日のお話の最後です。10 節の「神のさまざまな恵みの善い管理者」は、私たちの心を神様に、また、お互いに対する感謝の心を産み出します。感謝の心は恵みを思い起こすたびに生まれます。「主の良くしてくださったことを忘れるな」(詩 103:2) と詩篇にあるとおりです。

管理者の前に、「善い」ということばが付けられています。「神の恵みの善い管理者」とは、神様が、生涯の中で、良くしてくださった恵みの一つ一つを丁寧に磨き上げながら、それを記憶にとどめる人ではないでしょうか。

最後の 11 節です。「アーメン」で終わっています。アーメンは、「これは、まことです」という意味です。神から与えられたそれぞれの使命、奉仕をどのような状況の中でも神様に感謝しつつ丁寧に着実にを行うことが、私たちクリスチャンには必要なのです。神の栄光を現すために、弱い私たちではありますが、新しい一週間を前向きに、主を見上げながら丁寧に歩んでまいりましょう。

お祈りをします。

